

「教育の意味」

教師はとても奥深いものであると、私は考える。そもそも、教師というのは将来の国家・社会を担う子どもたちの成長と活躍に大きく関わる仕事であり、どれだけAIや人工知能が発達しても代替し難いものだと想像する。今や、店の会計にはセルフレジが普及し、ファミレスで頼んだメニューを席に配達する手段もロボット、これまで人間の労働力を使わないとできなかったものが、およそ機械でできてしまう世界に変化しているのだ。そんな中、教員という仕事は機械に置き換えることは不可能だと思う。人間が子どもに関わるからこそ、「教育」の意味があると感じられる職業であることに、私はとても惹かれている。だが、それだけではない。私には尊敬している先生が一人おり、その先生のようになりたく、私の目指したい未来が見えてきているのである。

私は小学3年生まで兵庫県の学校に通っていた。しかし、小学校3年生の2月に家族で東京へ引っ越すことになってしまった。だが、私には少しの期待があった。以前、2・3年生の始業式の時に入ってきた転校生を紹介されたとき、なんだかキラキラして見えて新しい同級生が来たというとても新鮮な気持ちになったことを私は覚えている。その転校生は、私を含めクラスメイトから興味を持たれ、一躍人気者になっていたのである。そんな姿を見ていた私は、転校生として次の学校に行けば皆の人気者になることができるかもしれないと感じたのだ。しかし、4年生で新しい学校に転校してみると、想像とは全く違い、話しかけてくれる子は少なかった。その後クラスに馴染めず、クラスメイトと距離ができてしまったのである。担任の先生とも意思疎通が出来ず、理不尽に叱られたこともあり、私の心は限界を迎えていた。そんな時、新しい家を買うことになり、再び5年生の4月から転校することが決まった。やっと解放されるのだと感じたが、転校する怖さも残った。しかし、新しい学校で私の担任してくれたS先生は私の気持ちにとっても寄り添ってくれ、同級生と関係を築いてくれたり、大丈夫だと安心させてくれたりと、何度も救われたような気持ちになったのだ。S先生のおかげか、はたまたその学校の子どもたちが優しくかったのか、転校生として紹介された後、クラスの大半が私の机に集まってきて、私にとっての居場所ができた気がしてホッとしたのを覚えている。今でもS先生には感謝してもしきれない。心が壊れかかっていた、日々の生活が楽しいと感じられなくなっていた私を支え、寄り添ってくれたのだ。今思い返してみれば、S先生と大きな出来事があった訳ではない。だが、当時の私には、先生の毎日のさりげない優しい声掛けにとっても救われていたと感じる。また、S先生は勉強だけでなく道徳的に大事なこともたくさん教えてくださった。叱るべき時には、しっかり叱ってくれるような先生であった。そんな思い出を振り返っていると、いつしか私もS先生と同じように困っている子どもを助け、支え、また人間として大切なことをしっかり教えることができる人になりたいと思い、この仕事に興味を持ち始めたのだ。

しかし、私には本当に教師に向いているのかという不安が少しあった。大学に入ってから教育実習が辛くて、教師になる夢を諦めてしまったという実体験を耳にしたことがあったからだ。そこで、私は一度教育の現場で、子どもとの接し方を体験しておきたいと思い、この夏休み、二つのボランティア活動に挑戦した。一つ目は、まだ私の通った小学校で勤務されているS先生にお願いし、夏休みの特別教室のプリントの丸付けをお手伝いさせていただいた。

二つ目は、学童保育のボランティアに参加して、子どもと関わる楽しさを体験した。体験してみると、子どもたちが勉強や遊びの中で試行錯誤して頑張っている姿や、私の一言でも喜んでくれた時の輝く笑顔は、私に活力を与え、教師になりたいという気持ちをより大きくさせるきっかけになったのだ。

AIが教育者になれば、的確かつミスのない教育ができるかもしれない。しかし、人間にはAIに存在しない特有の優しさがある。ただ決まったことを教えるだけでなく、子どもと色々な感情を分かち合うことも教師の役目なのだ。小学校を3校経験するというのは良い経験であったと今となっては思える。感じたことは、小学校は小学校でも学校ごとに雰囲気は全く違い、多種多様であるということだ。それは、教師の教育の仕方や価値観で学校全体にも、教育を受けている子どもにも大きく影響する。だからこそ、私は自分が学ばせてもらったことを、私にしか伝えられないことを、今度は教育者として伝えたい。私自身が今後社会を担っていく子どもたちの人生の一部の手助けになり、それがいつか役に立ったと少しでも思ってもらえたら嬉しい。